

【博士学位論文構成図】 タイトル：「スクールソーシャルワークの今日的課題と機能に関する研究  
—児童の成長を視野に入れた機能への着目—」

## 序章：スクールソーシャルワーク機能を基盤とした支援とは

問題の所在、研究目的と方法、構成と概要

## 第Ⅰ部：児童及び家庭が抱えている今日的困難

検討課題：児童及び家庭が抱えている困難に焦点を当て、それに対して SSW 機能のあり方について検討する。

研究背景

## 第一章 児童及び家庭が抱えている困難の実際

<課題①> いま児童及び家庭が抱えている困難は、これまでと何が異なるのか？…第一章→ 従来の困難とはどのような相違点があるのか、また、どのような支援が行われてきたのか検討を行う。

## 第二章 児童福祉法の改正に伴って変わっていく支援のあり方

<課題②> 児童福祉法の改正に伴って子どもと家庭の支援のあり方はどのように変わったのか？…第二章→ 法律の成立とともに、児童及び家庭が抱えている困難への支援はどのように変わっていくか検討を行う。

自分の  
スタンス表明

## 第三章 児童及び家庭が抱えている困難に求められるスクールソーシャルワーク機能

<課題③> 児童及び家庭が置かれている困難への働きかけのなかで、今日 SSWer が担っている SSW 機能は適切であるのか？…第三章  
→ これまでの SSW 機能の限界について明らかにし、児童の成長を視野に入れた SSW 機能について検討を行う

## 第Ⅱ部：スクールソーシャルワーク機能の歴史的変遷

検討課題：改めて SSWer がなぜ導入してきたのか、実践の展開のなかでどのような SSW 機能を重視していたのかについて検討する。

アメリカにおける  
SSW 機能の歴史

## 第四章 アメリカ合衆国におけるスクールソーシャルワーク機能の歴史的変遷

<課題④> アメリカの SSWer がどのような社会背景から提起され、実践のなかでどのような SSW 機能を重視してきたのか？…第四章  
→ アメリカにおける SSW 実践の展開を歴史的変遷を辿って、どのような SSW 機能を重視していたかについて検討する。

日本における  
SSW 機能の歴史

## 第五章 日本におけるスクールソーシャルワーク機能の歴史的変遷

<課題⑤> 日本の SSWer がどのような社会背景から提起され、実践のなかでどのような SSW 機能を重視してきたのか？…第五章  
→ 日本において SSWer 導入の背景を辿り、どのような SSW 機能を重視していたかについて検討する。

国会の動向

## 第六章 日本の国会におけるスクールソーシャルワークに関する議論

<課題⑥> 国会のなかで SSWer に求めていた SSW 機能とはいかなるものか？…第六章  
→ 日本の国会において、SSWer に対してどのような SSW 機能を求められ、どのような実践を期待していたのかについて検討する。

## 第Ⅲ部：これから求められるスクールソーシャルワーク機能

検討課題： SSWer のそれぞれの実践の展開から、いま問われている SSW 機能について検討する

質的調査①

## 第七章 コロナ禍の経験から見えるスクールソーシャルワーク実践の実際

<課題⑦> コロナ禍のなかで SSWer はどのような実践を行なっていたのか？…第七章  
→ コロナ禍のなかで SSWer がどのような実践を行なっているのか質的なデータを収集する。そして、それらの結果を照らし合わせて、いま児童及び家庭が抱えている困難に対しての学校における支援の課題と SSWer の実践意義を明らかにする。

質的調査②

## 第八章 スクールソーシャルワーカーが重視している機能と求められる機能の実際

<課題⑧> 学校から求められている SSWer 実践と、それを受け入れながらどのような実践を重視しているのか？…第八章  
→ 学校や自治体からどのような働きかけを求めていて、そのなかで SSWer はどのような実践を重視しているのか質的なデータを収集する。そして、これから求められる SSWer の実践について示唆を得る。

質的調査③

## 第九章 スクールソーシャルワーカーが抱えている困難の実際

<課題⑨> 実践を行っているなかで SSWer がどのような困難を抱えているのか？…第九章  
→ SSWer が実践を展開するうえで、どのような困難を抱えているか質的なデータを収集する。そして、その困難の対処に向けた取り組みについて検討する。

総合考察

## 第十章 児童の成長を視野に入れたスクールソーシャルワーク機能の展開

<総合考察> 児童の成長を視野に入れた SSW 機能とはいかなるものか？…終章  
 ① 学校が再び児童にとって居心地が良い場所となるための働きかけ  
 → 学校を再び児童にとって居心地の良い場所になるためには、単発的な働きかけではなく、学校及び地域を拠点として児童及び家庭を支援している機関を取り入れ、学校を再び児童にとって居心地が良い場所になるためのプロセスが欠かせない。  
 ② 児童の卒業後を考えるスクールソーシャルワーク機能  
 → 児童の成長を視野に入れた SSW 機能は、児童及び家庭が抱えている困難に対する支援を行う際に、いま行われる支援が卒業後の児童にどのような影響を与えるのかを考えることが重要である。  
 ③ 児童の成長に求められるスクールソーシャルワーク機能の実際  
 → 児童の成長において、児童の教育を受ける権利を支えること、他者とのコミュニケーションを通して価値観の形成を支えること、心理的安定を図ることで自己肯定感を高める。

## 終章 児童の成長を視野に入れたスクールソーシャルワーク機能の課題と展望